

放送大学大学院文化科学研究科

人間発達科学プログラム

人間発達科学プログラムを構成する 2 領域

人間発達科学
プログラム

```
graph TD; A([人間発達科学プログラム]) --- B[心理学領域  
(臨床心理学を除く)]; A --- C[教育学領域]
```

心理学領域
(臨床心理学を除く)

教育学領域

【人間発達科学プログラムの人材養成目的】

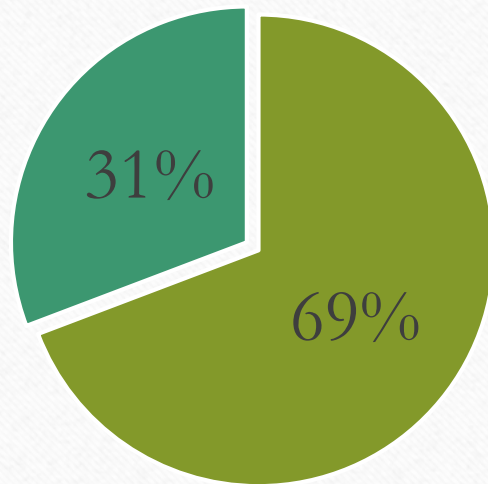
現代社会は人間の発達に様々な課題を要請しているとともに発達上の困難や問題も生起させています。人間発達科学プログラムは、心理と教育に関する科学的・実証的な調査研究の方法と専門的知見を有し、家庭、教育機関、地域社会等の諸分野で実践的に活動できる指導的人材の養成を目的とします。

【人間発達科学プログラムの求める学生像】

- ☆人間発達の心理的・教育的な問題に強い課題意識と学習意欲を有する人
- ☆上記の問題を科学的・実証的に考え分析して課題に積極的に取り組もうとする熱意のある人

人間発達科学プログラムの修士課程大学院生 (2020年度修了生)

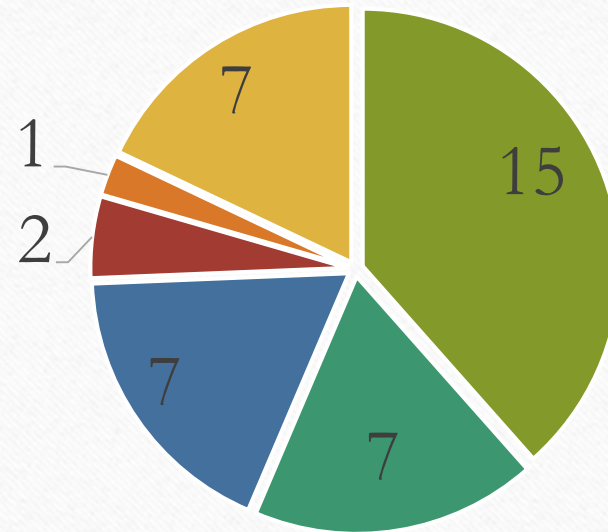
男女別



■ 男性 ■ 女性

職業別

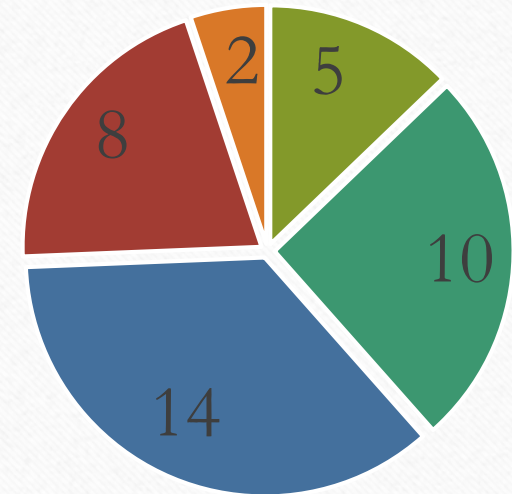
単位:人



■ 教員
■ 公務員・団体職員等
■ 会社員等
■ 看護師等
■ 自営業・自由業
■ その他

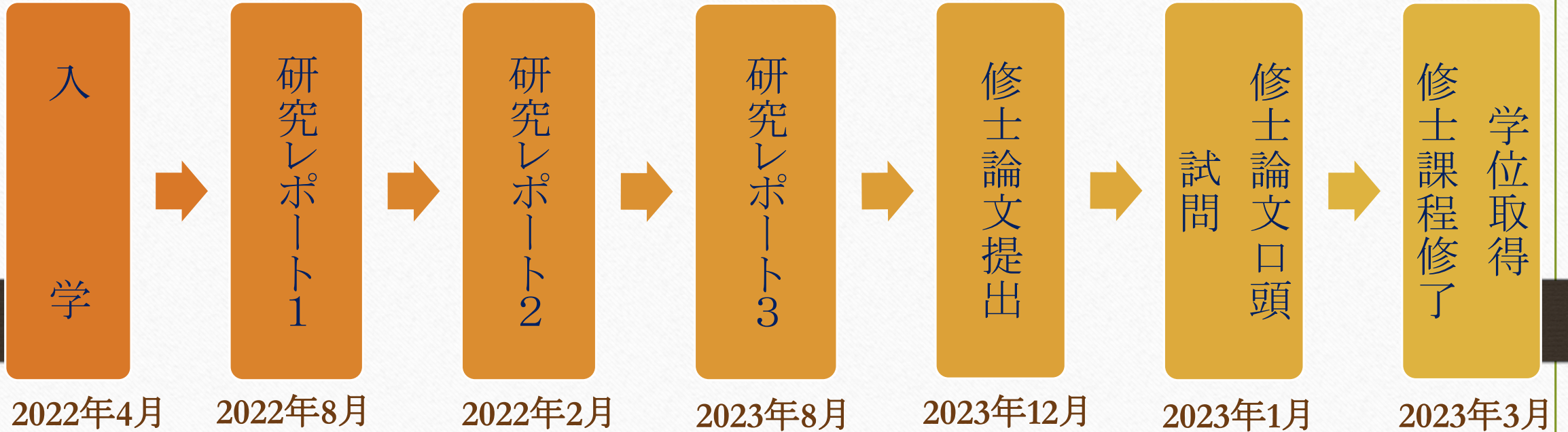
年齢別

単位:人



■ 30代 ■ 40代 ■ 50代
■ 60代 ■ 70代

修士課程の修学の流れ



指導教員による研究指導

授業科目の履修

研究レポートとは

研究レポートは修士論文の完成までのプロセスで、研究の進捗状況の報告で、修士論文の完成までの小目標といった性質のもの

例えば

研究レポート 1 で自身の研究テーマに関する先行研究のまとめと実験や調査の立案まで

研究レポート 2 で実験や調査を実施し、その結果の集計まで

研究レポート 3 で結果の分析まで

論文指導の実際

一般に、月一回程度、千葉の大学本部、または東京文京学習センターなどで対面のゼミ形式の指導

遠隔地に居住で、毎回は来られないという方には、E-mailやweb会議システムなどを使っての指導

過去の修士論文のタイトルの一部

外国人児童生徒等に対する効果的な日本語初期指導

学校への中間職層導入の成果と課題

高校教育におけるキャリア教育の取り組みについて

成人期の愛着スタイルと対人関係との関連性

大学生の海外短期ボランティア経験が及ぼす学習成果の認知

脳卒中患者がリハビリテーションに向かう原動力

ピアノ学習者におけるメンタルトレーニングの実践と効果

選択肢喪失場面が意思決定に及ぼす影響とその阻害要因

中高年世代における生涯学習と市民活動との関わりについて

看護学生の実習前後における気持ちの変化

心理学分野の教員



進藤聡彦(教育心理学)



向田久美子(発達心理学・文化心理学)



森津太子(社会心理学)



高橋秀明(認知心理学)

教育学分野の教員



田中統治（カリキュラム・学校教育）



岩永雅也（教育社会学・生涯学習）



苑復傑（教育経済学・教育社会学・遠隔教育）



岩崎久美子（生涯学習論）

修了生からのアドバイス

☆ゼミを一つの目安として研究を進めることがモチベーションの維持や進捗具合に大きな影響を及ぼすと思います。

☆ゼミに参加して、他の方の研究についても質問することも勉強になりますし、自身の研究に関しても様々な意見を求めることが重要だと思います。そうすることで視野も広がり、行き詰まった時にも大きなブレイクスルー（突破口）を発見することができるかと思っています。

☆実験調査の対象や実験協力者に可能な限り早めにアポイントメントを取ることです。これに調査準備も合わせるとかなり労力を要します。量的な分析をしようとする、調査対象の人数の十分な確保も必要になると思いますので、これに早めに取り組むか否かで、その後の分析に使える時間も大幅に変わると思います。

☆1年目にできるだけ、科目で必要な単位をそろえておいて、なるべくなら2年目は、修士論文のデータ分析や執筆に時間を集中的に充てられるよう調整するといいたと思います。

☆修士論文を書くために必要となる技能や知識を、卒業に必要な単位として必要な授業で習得すれば一石二鳥になります。(私の場合、統計分析に関わる知識や技能が苦手・不足と自覚していましたので、1年目の授業で積極的にこの分野を選択して習得しました)

☆ゼミには積極的に出席して報告する。(私の場合、ゼミで報告する内容に自信があったわけでは、全然ありません。しかし、ゼミの日程が決まっているので、その時までにとまとめたことや今やっていることを報告するようにしました。そうでないと、一人では絶対に論文の調査も分析も進んでいかなかったはずで、ゼミに出られない時も、この1か月はこのようなことをしました、とメールで報告するように心がけました。こんなふうにゼミという区切りがあったので、少しずつ進んで来られました。)

☆いろいろな論文を読むと、段々、具体的な方針が見えてきます。

☆他の人の異なるテーマの話題にも積極的に参加すること。意外なところに共通の課題が見えてきます。

☆はっきり言って、仕事に忙殺されてしまい、正直なところ何度もくじけそうになりました。担当の先生は勿論ですが、同じゼミの方々との繋がりもととても大切です。人間は一人では弱いので、同じゼミ生の頑張りや励ましが、自分を引っ張っていってくれたとも思うからです。

人間発達科学プログラムの紹介は以上です。
皆さまに来年の4月にお目にかかるのを楽しみにしています。